The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪外国語大学アジア学論叢 第5号　序
Author(s)	赤木, 攻
Citation	大阪外国語大学アジア学論叢. 1995, 5, p. 1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99703
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

序

大阪外国語大学（外大）は1993年度から大幅な制度改革を断行した。それは、前身である大阪外事専門学校以来の70年余の歴史の中でも、最も大きな変容であった。端的にいえば、教育研究の対象を世界諸地域の言語のみから言語を含む諸現象に拡大することであった。より具体的には、言語を基本単位とした従来の「語学科」体制を廃止し、「国際文化学科」と「地域文化学科」の２つの新しい大学科に編成変えした。諸地域の個性を探求するのが「地域文化学科」であり、そうした個性間の比較を通して普遍性を追求するのが「国際文化学科」である。もちろん、両学科とも言語が基本におかれる。

外大にこうした変容を迫った遠因には、ここ10年の世界的規模での社会変動がある。たとえば、私がよく歩く東南アジアでも、10年前にはひなびた農村であった土地が今や近代工場が立ち並ぶ工業団地に変貌したり、教科書か政府刊行物以外みるべき出版物がなかったところに夥しい民間出版物があふれる状況が観察される。こうした大きな変動の背後にある論理が、当然のことながら考察の対象になってくる。変動が生じた地域の歴史や文化、さらには環境といった問題も重要な課題になってくる。

本来「外国の言語とそれを基底とする文化一般」を教育研究の対象とする外大が、語学にのみこだわることは、もはや許されないわけである。約20年間活動を続けてきた「アジア研究会」は、これからも＜ことば＞を生かした各地域の内在論理の発掘と普遍への突き合わせという個性の強い「アジア学」を築いていくつもりである。

1995年３月

大阪外国語大学アジア研究会

代表　赤　木　　攻